

## 令和4年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

<b>団体名</b>  Hole in one (九州産業大学地域共創学部佐藤ゼミ)	<b>団体区分 (混成の場合は複数☑)</b> <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
<b>取組名</b> 大学生によるデザインマンホール蓋の広報効果研究	
<b>責任者 (実際に広報に取り組んだチームの代表者)</b>  氏名 : 学生代表 森 卓命 指導教員 佐藤 忠文 所属 : 九州産業大学地域共創学部地域づくり学科 電話 : 092-673-5276 (研究室直通) E-mail : t.sato@ip.kyusan-u.ac.jp (佐藤)	
<b>担当チームの構成</b> (外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい)  森 卓命 ・ 山下 雅敦 ・ 久徳 駿斗 ・ 木村 元継 (九州産業大学地域共創学部地域づくり学科4年生)	
<b>取組のポイント</b> (一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい) ✧ 大学生が2年間、デザインマンホール蓋を入口に下水道広報のことを考え続けた。 ✧ おそらく日本初となるデザインマンホール蓋の広報効果を調査する研究に取り組んだ。 ✧ 路上でマンホール蓋の視認率調査や下水道広報の理解度に関するアンケート調査を実施 ✧ 「どのくらいの市民が見ている?」「下水道事業の理解につながっている?」という疑問解明に挑戦 ✧ 調査結果を「第10回マンホールサミット in 所沢」にて発表 (サミット史上初の大学生登壇)	
<b>アピールポイント</b> デザインマンホール蓋に焦点を合わせ下水道事業広報に新たな視点を与えた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マンホール蓋の新デザインが増加するなか、その広報効果を検証する視点を導入</li> <li>○ 交通量調査を応用した調査方法を考案。蓋の視認率や下水道広報の理解度を調査</li> <li>○ マンホール蓋を入口に、下水道事業の理解・イメージ向上に繋がるのが重要と提起</li> </ul> これから社会人として働く若い大学生が下水道事業への関心を高めた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学内の研究発表会で受賞。大学生にマンホール蓋及び下水道事業をPRした。</li> <li>✓ 第10回マンホールサミット in 所沢で発表。来場者から多くの賛同や応援の声を貰った。</li> <li>✓ 就職活動でも研究内容を話すと企業側がとても好評価。あらゆる場面でPRに取り組んだ。</li> </ul>	
<b>要したコスト</b> 【総額】 30 万円      【内訳】 調査旅費や消耗品 : 15 万      発表に関する旅費 : 15 万	

**取組の概要**（適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい）

### ○関係者へのヒアリング

2021年、全ては1本のダイレクトメッセージ（DM）から始まった。ゼミのなかでデザインマンホール蓋に興味を持ち、たまたま見つけたマンホラーM氏のSNSアカウントに連絡したところ僅か5分で返信が届きヒアリングが実現した。そこからマンホール蓋メーカーの方を紹介いただき、2年間に渡り関係者へのヒアリングを続けた。そのなかでデザインマンホール蓋を「実際にどのくらいの人が見ているのか?」そして「下水道事業のPRに十分繋がっているのか?」という疑問を解明する必要性に気が付き、調査を始めた。

### ○工場見学による学習（日之出水道機器株式会社佐賀工場）

2022年4月、日之出水道機器株式会社様の佐賀工場を訪問。デザインマンホール蓋製造の現場を見学し、メーカーの方々との意見交換を進めた。

### ○視認率等の路上調査

《第1回調査》

実施日：2021年10月31日

対象地域：北九州市内2か所



《第2回調査》

実施日：2022年8月6日及び7日

対象地域：佐賀市内2か所



写真 路上調査の様子（左：佐賀市，右：北九州市）

### ○第10回マンホールサミット in 所沢で発表

2022年11月19日、ところざわサクラタウンで開催された「第10回マンホールサミット in 所沢」のリレートークに登壇。600名を超える観客の前で、調査結果などこれまでの取り組みを発表。マンホール蓋を入りに、下水道事業の理解・イメージ向上に繋がることが重要と提起した。著名なマンホラーの方々と交じり、大学生の登壇はサミット史上初だった。

**成果**（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

### ○調査から得た視認率等のデータ

視認率について、2回の調査から次の結果を得ることができた。

これらのデータを積み上げていくことは広報活動のエビデンスを得ることに繋がる。

調査	場所	視認率	視認したひと／通行人
第1回調査 (北九州市)	リーバーウォーク北九州付近	約8.3%	173人／2,086人
	門司港付近	約9.2%	504人／5,506人
第2回調査 (佐賀市)	ARKS 広場付近	約18.3%	84人／460人
	656 広場付近	約10.2%	63人／595人

（注）限られた調査であり、蓋や調査日の特性に対する考慮は十分とは言えず、現時点でデータの信頼性が高いとは言えないと考えている。今後の課題として後輩に引き継ぎ、継続的に調査を続けたい。

### ○大学生による下水道事業のPR

第10回マンホールサミット in 所沢にて、一般の600名超の観客の方々に向けて調査結果を発表することができた。その結果、多くの方の応援の声をいただいた。（右写真：サミットで発表の様子）

